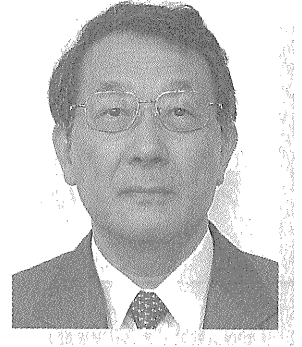


巻頭言

新年のご挨拶

小野 和日児



新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のお祝いを申し上げます。

21世紀も6年目を迎えることになりました。20世紀末の重苦しい雰囲気から、一転、新しい世紀には明るさを期待しましたが、依然として、国際情勢、経済動向、社会秩序 etc. いずれも混沌としています。しかしながら、日本経済はまったくの不透明のなかから、先を見通すことができる状況にまで回復し、国内的には、この混沌のなかに秩序と安定へ向かう空気を感じることができます。

その中で建設分野は依然としてつづく公共事業の抑制に加えて、受発注の仕組みに世の批判が集中するなど、晴れ間の見えない状態が続いています。公共事業の品質を確保する法律が平成17年3月に成立し、4月から施行されています。この法律は、公共事業のシステムを根本から変えることを目的とする法律であり、会員の企業経営、技術開発さらには技術者の経験、技術力に大きくかかわるものであります。協会としては、この法律の目的とするところを会員各位に理解し遵守していただくために、普及・啓蒙活動を精力的に進めることとしています。

地球温暖化による異常気象の発生は地球環境の保全をより緊急の課題としていますが、5月には特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律が公布され、現在、関係省庁において政省令、技術基準等の策定に取り組んでいます。建設機械メーカーはすでに新法に対応する技術開発、車両製作を進めていますが、協会としては排ガス規制法に対応した建設機械の普及を積極的に支援していきたいと考えています。

平成17年は、協会を取り巻く環境は厳しいものがありました。本部、支部および研究所において、環

境、安全、防災に関する技術開発を中心に、「より効率的に、より機動的に」をモットーに業務を進め、事業計画に沿ってほぼ順調に進んでいます。大型、異常かつ多発する気象に起因する災害あるいは地震災害等に対応するため、防災施設の強化、緊急時の施工システム、点検・復旧技術の強化等が一昨年来の課題となっています。こうした課題に対しましては、建設機械メーカー、ゼネコンをはじめ多業種の企業を会員とする当協会の特性を生かし、複数機械の稼働システムの設計、先端技術による新しい動作を可能とするマシンの開発等を含めた多くのテーマについて、部会および研究所において調査研究を進めているところであります。

今年、CONETの開催の年です。「けんせつきかい、未来への挑戦」をテーマに、「環境」、「防災」、「安全」をキーワードに、最新の建設機械、先端的な技術を一堂に集め、国内外から多くの方々に参加していただける展示会にすることを目標に、実行委員会を中心に協会を挙げて準備に掛かっています。出展者と国内外からの来場者の皆さんとのコミュニケーションの場となり、また専門の方々はもちろんのこと一般の方々にも多数おいでいただけるように企画、運営に工夫を凝らしたいと考えています。会員の皆様には、「見せたい自慢の機械と技術」を多数ご出展いただきますとともに、CONETの企画、宣伝、運営等に積極的なご支援、ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本年も協会の活動、運営に会員の皆様のご協力をお願いいたしますとともに、会員各位のご健康とご活躍を祈念申し上げまして新年のご挨拶といたします。